

II. 調査レポート (干潟以外調査)

生物調査（干潟以外）のレポート①

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	東京湾内	(1) 8月6日 8月14日 (2) 8月4日	(1) 底生生物 (2) 付着生物

生物調査の結果

団体名	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	
調査地点名	底生生物調査：St. ㊟-2 [〃] 、St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ① 付着生物調査：羽田空港D滑走路棧橋部の杭（3地点） (St. d1：沖側、St. d2：中央部、St. d3：空港側)	
位置座標 (可能であれば)	緯度	St. ㊟-2 [〃] 35° 32' 2.2" St. 5 35° 33' 37.2"、St. 10 35° 32' 10.2" St. 12 35° 31' 29.4"、St. 15 35° 31' 18.2" St. 18 35° 31' 04.2"、St. ① 35° 31' 42.2"
	経度	St. ㊟-2 [〃] 139° 47' 9.5" St. 5 139° 48' 11.4"、St. 10 139° 48' 39.0" St. 12 139° 48' 03.0"、St. 15 139° 48' 21.0" St. 18 139° 48' 43.8"、St. ① 139° 47' 30.0"
実施年月日	令和7年8月4日 (St. d1, St. d2, St. d3) 令和7年8月6日 (St. ㊟-2 [〃])、 令和7年8月14日 (St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①)	

<調査の様子>

- ・St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①

グラブ式採泥器を用いて1地点で底質を3回採取し、0.5mm目のフルイでふるった後に残ったものを試料とした。試料を保存容器に入れて約10%濃度のホルマリンで固定し、分析室にて出現種の同定、個体数の計数、湿重量の測定を行った。



採泥状況



ふるい状況



底生生物試料

- St. d1, St. d2, St. d3

潜水士により、30cm×30cm コドラート内の付着生物の観察を行った。観察箇所は暗渠となっている羽田空港 D 滑走路棧橋の杭で、南側一直線上の水面から水底面までの 5m 間隔及び水底面の周辺とした。



杭の状況



観察状況



観察状況

○底生生物調査

< 主な生物の写真 (写真中の 1 目盛りは 1mm) >

- St. ⑨-2



コハギガイ



アサリ



ニッポンドロソコエビ



Monocorophium. sp

- St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①



環形動物門：シノブハネエラスピオ



環形動物門：Mediomastus sp



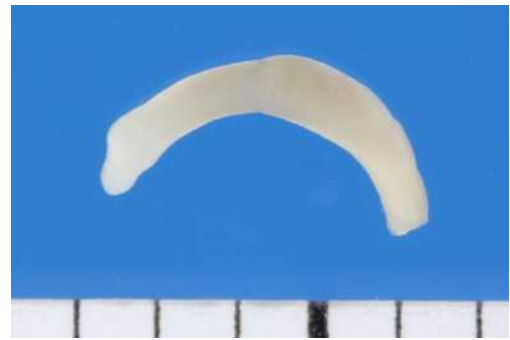
環形動物門：ハナオカカギゴカイ



環形動物門：イトエラスピオ



軟体動物：アサリ



紐形動物門

< 調査結果 >

・ St. ⑨-2´

調査期日：令和7年8月6日
 調査方法：スミス・マッキンタイヤ型採泥器による3回採泥
 (マウンド上では網袋を回収：0.1m²採取と想定)
 単 位：1m²あたりの個体数および湿重量(g)

番号	門	綱	種 名	調査地点	
				個体数	湿重量
1	紐形動物	花虫	紐形動物門	120	0.33
2	軟体動物	二枚貝	ホトキ ^ス ガイ	140	0.60
3			コハキ ^カ イ	7	+
4			アサリ	947	21.20
5			マルスガ ^レ ガイ科	7	+
6			マテ ^カ イ	907	15.87
7			マテ ^カ イ属	987	0.27
8			シオ ^フ キ	33	9.00
9			ハ ^カ ガイ属	147	0.07
10			環形動物	コ ^カ イ	<i>Eteone</i> sp.
11	<i>Glycera</i> sp.	7			0.40
12	ハナオカ ^カ コ ^カ イ	7			+
13	ウ ^キ コ ^カ イ	7			0.20
14	コ ^ケ コ ^カ イ	7			0.13
15	コ ^カ イ科	33			+
16	ケンサ ^キ スピ ^オ	7			+
17	ヤマ ^ス スピ ^オ	127			0.13
18	イト ^エ スピ ^オ	13			+
19	<i>Pseudopolydora</i> sp.	120			0.13
20	<i>Rhynchospio</i> sp.	1,680			1.00
21	イト ^コ ガイ属	33			+
22	<i>Mediomastus</i> sp.	60			0.13
23	<i>Armandia</i> sp.	180			0.13
24	節足動物	軟甲	ニッポ ^ン ト ^ロ ソコ ^ビ	4,760	3.27
25			<i>Monocorophium</i> sp.	1,793	0.87
26			ミツ ^オ ビ ^ケ マ	473	0.27
27			スナモ ^ク リ科	7	+
種 類 数				27	
合 計				12,709	54.13

注：「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

・ St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①

出現種類数は3~27種類の範囲であり、St. 18で最も少なく、St. ①で最も多かった。
 出現個体数は167~10,101個体/m²の範囲であり、St. 18で最も少なく、
 St. 10で最も多かった。出現種の湿重量は0.13~312.07g/m²の範囲で、St. 18で最も少なく、

St. ①で最も多かった。主な出現種は環形動物門のシノブハネエラスピオ、Mediomastus sp、ハナオカカギゴカイ、イトエラスピオ、軟体動物門のアサリ、その他の紐形動物門であった。

<確認生物の概要>

・St. ⑨-2'

【調査地点 St.⑨-2'】

項目/調査時期		夏季 (R7年8月6日)
出現種類数	環形動物	14
	軟体動物	8
	節足動物	4
	その他	1
	合 計	27
出現個体数 (個体/m ²)	環形動物	2,381
	軟体動物	3,175
	節足動物	7,033
	その他	120
	合 計	12,709
出現湿重量 (g/m ²)	環形動物	2.38
	軟体動物	47.01
	節足動物	4.41
	その他	0.33
	合 計	54.13
主な出現種 個体数 組成比 (%)	環形動物	<i>Rhynchospio</i> sp. (13.2)
	軟体動物	-
	節足動物	ニッホノトモロコエビ (37.5) <i>Monocorophium</i> sp. (14.1)
	その他	-
アサリ 出現状況	個体数	947 (7.5)
	湿重量	21.20 (39.2)

注：1. 「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

2. 主な出現種は、各調査地点の出現個体数の上位5種(ただし、種別組成比が10%以上)を示す。

3. 主な出現種の()内の数値は、出現した個体数に対する比率(%)を示す。

・St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①

項目／調査地点		St. 5	St. 10	St. 12	St. 15
出現種類数		4	10	4	5
出現個体数 (個体/m ²)	環形動物	5,107	9,681	401	2,233
	軟体動物	—	—	—	—
	節足動物	—	7	—	—
	その他	—	413	—	—
	合計	5,107	10,101	401	2,233
出現湿重量 (g/m ²)	環形動物	8.87	16.74	0.67	10.20
	軟体動物	—	—	—	—
	節足動物	—	0.07	—	—
	その他	—	0.53	—	—
	合計	8.87	17.34	0.67	10.20
主な出現種 個体数 (個体/m ² (%))	環形動物	シノブ ハネエラスビ オ (95.9)	シノブ ハネエラスビ オ (73.8) ハチカガキ コカイ (11.7)	シノブ ハネエラスビ オ (76.6) イトエラスビ オ (20.0)	シノブ ハネエラスビ オ (88.4)
	軟体動物	—	—	—	—
	節足動物	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—
主な出現種 湿重量 (g/m ² (%))	環形動物	シノブ ハネエラスビ オ (99.2)	シノブ ハネエラスビ オ (93.4)	シノブ ハネエラスビ オ (100.0)	シノブ ハネエラスビ オ (97.4)
	軟体動物	—	—	—	—
	節足動物	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—

項目／調査地点		St.18	St. ①	<海域全体> 種類数：延べ数 個体数・湿重量：平均値
出現種類数		3	27	33
出現個体数 (個体/m ²)	環形動物	167	2,321	3,318
	軟体動物	—	3,539	590
	節足動物	—	408	69
	その他	—	727	190
	合計	167	6,995	4,167
出現湿重量 (g/m ²)	環形動物	0.13	4.34	6.83
	軟体動物	—	307.06	51.18
	節足動物	—	0.20	0.05
	その他	—	0.47	0.17
	合計	0.13	312.07	58.21
主な出現種 個体数 (個体/m ² (%))	環形動物	シノブ ハネエラスビ オ (64.1) イトエラスビ オ (31.7)	Mediomastus sp. (23.6)	シノブ ハネエラスビ オ (59.4)
	軟体動物	—	アザリ (46.9)	アザリ (13.1)
	節足動物	—	—	—
	その他	—	紐形動物門 (10.4)	—
	合計	—	—	—
主な出現種 湿重量 (g/m ² (%))	環形動物	シノブ ハネエラスビ オ (100.0)	—	シノブ ハネエラスビ オ (10.4)
	軟体動物	—	アザリ (92.4)	アザリ (82.5)
	節足動物	—	—	—
	その他	—	—	—
	合計	—	—	—

- 注：1 主な出現種は、各調査地点の出現個体数および出現湿重量の上位5種（ただし、種別組成比、湿重量比が10%以上）を示す。
2 主な出現種の()内の数値は、出現した個体数または湿重量に対する比率(%)を示す。
3 海域全体欄の種類数は6地点の延べ数、個体数および湿重量は6地点の平均を示す。
4 表中の「—」は出現していないことを示す。

○付着生物調査

<調査結果>

付着生物の被度として、水面(A. P. ±0m)では、ヒドロ虫綱が47~83%、イソギンチャク目がSt. d1を除き 26~31%、ミドリイガイが 6~15%を占めていた。水面下 5m(A. P. -5m)では、泥性棲管が 58~72%、海綿動物門が 11~35%を占め、St. d3 ではヒドロ虫綱が 13%を占めていた。水面下 10m(A. P. -10m)から海底上 1m では、泥性棲管が 82~96%、カンザシゴカイ科が 4~15%を占めていた。

表1 暗渠への付着生物調査の調査結果概要 (St. d1 : 沖側)

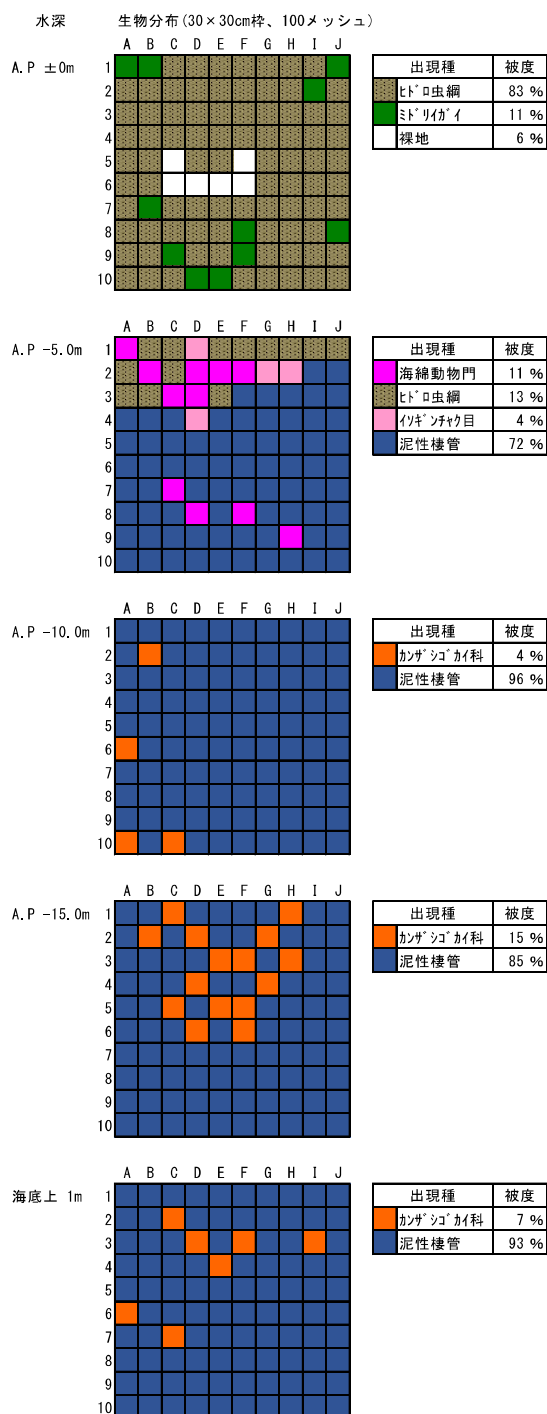


表2 暗渠への付着生物調査の調査結果概要 (St. d2: 中央部)

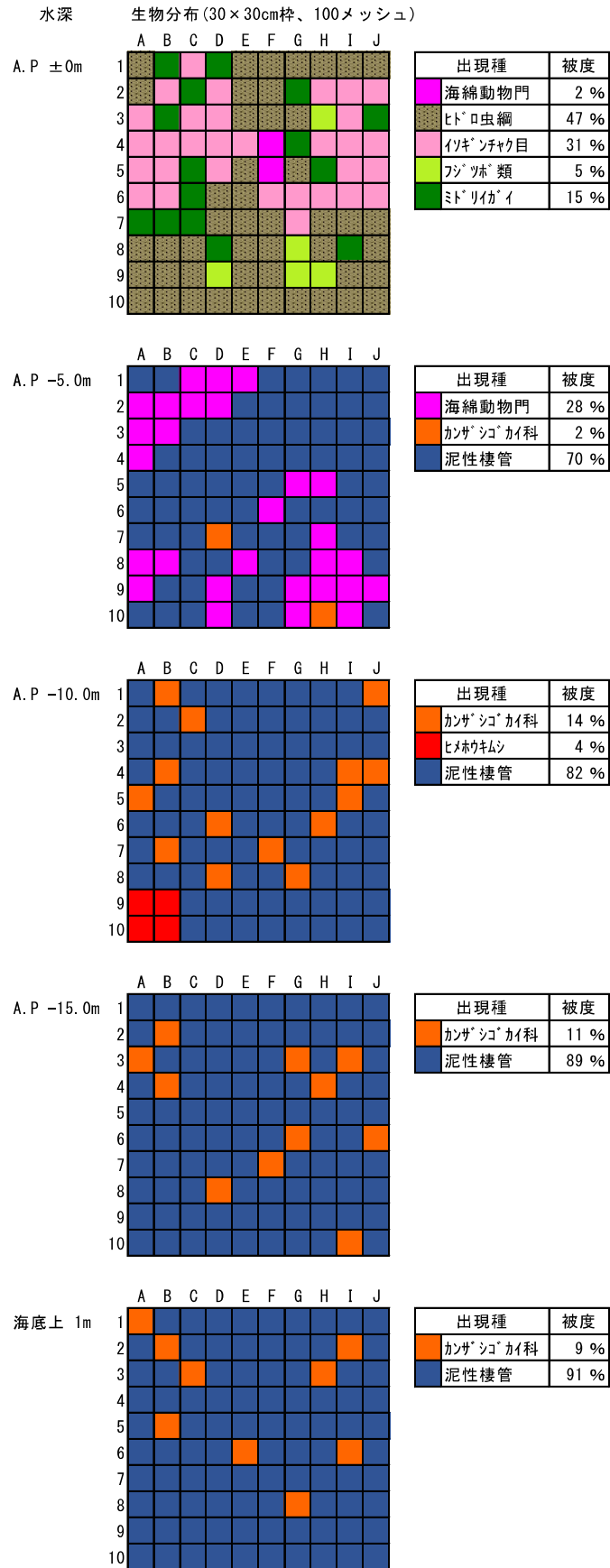
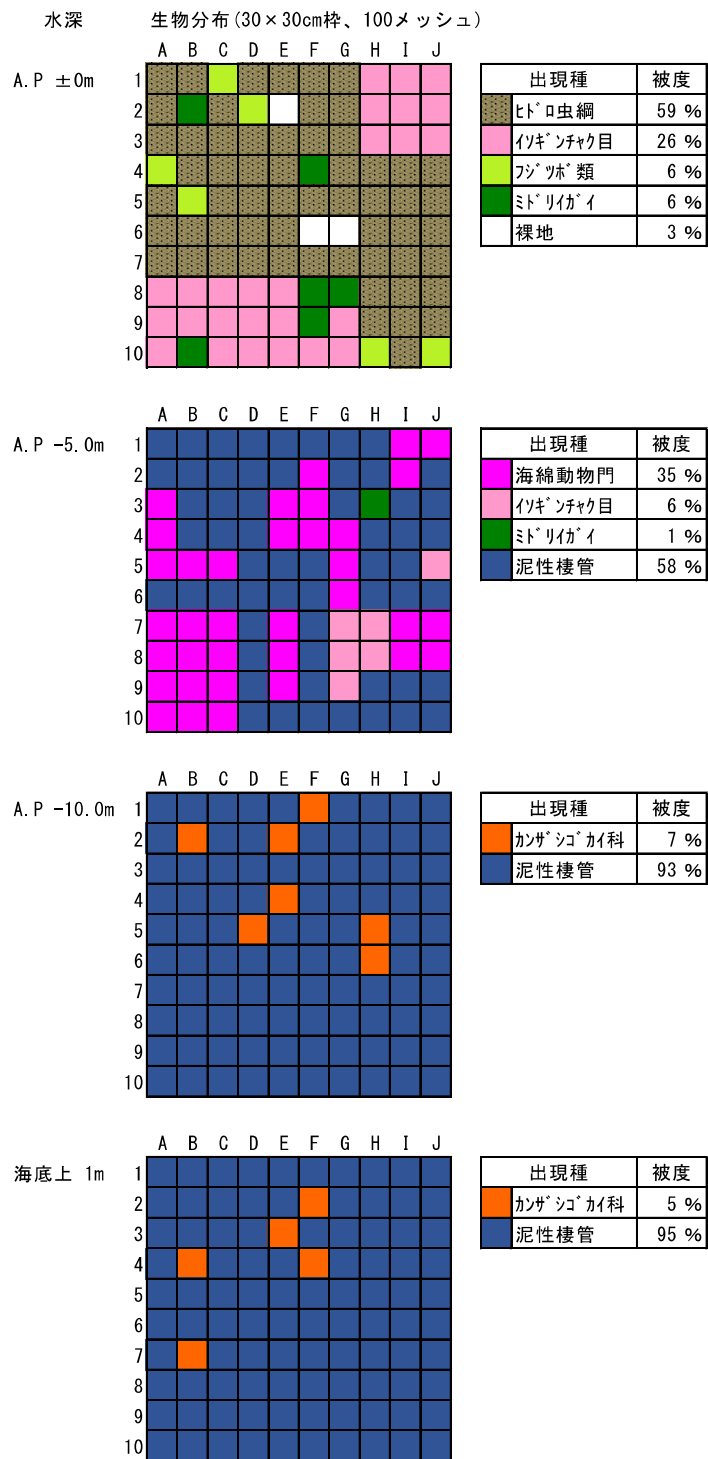


表3 暗渠への付着生物調査の調査結果概要 (St. d3: 岸側)



生物調査（干潟以外）のレポート②

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所	東京湾内	6月30日～ 7月7日	(1)底生生物 (2)付着生物

生物調査の結果

団体名	発注者：関東地方整備局京浜港湾事務所 受注者：三洋テクノマリン
調査地点名	新本牧地区
実施年月日	令和7年6月30日～令和7年7月7日

【対象生物】

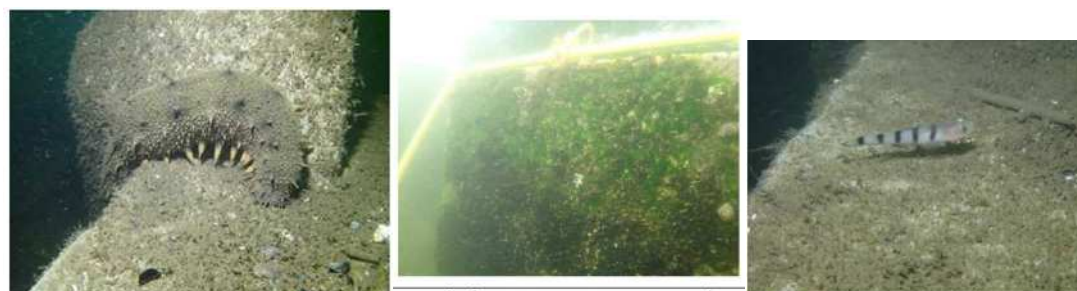
東京湾新本牧地区に生息する水生生物

【調査結果概要】

以下の種(一部)が観測されました。



S11(目地板 Y.P.-2.0m) 孔AH5(多孔板 Y.P.-6.0m) 孔径 30mm イソギンポ付着卵 内 20mm カサ当歳魚(幼魚) AH8(スタビック) 下面隙間 マダコ



E2(スタビック) 上面隅角部 マナコ S9 (ポーラス Y.P.+1.0m) ムラサキイガイ

E2(スタビック) 上面 リュウグウハゼ

生物調査（干潟以外）のレポート③

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都環境局自然環境部 水環境課	東京湾内	(1) 7月29日 (2) 8月8日 (3) 9月4日 (4) 8月7日 (5) 8月21日	(1) プランクトン (2) 稚魚 (3) 成魚 (4) 鳥類 (5) 底生生物

プランクトン調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

東京都環境局では、水質汚濁防止法第16条の測定計画に基づく毎月の水質測定調査時に加え、夏季期間中に延べ17日間の赤潮調査（上位5種）を実施し、概ね毎週、赤潮発生の推移を見ている。ここでは令和7年7月29日に実施した赤潮調査の結果を報告する。

【調査実施日・地点】

令和7年7月29日 東京都内湾8地点（お台場, St.6, 8, 11, 22, 23, 25, 35）

【調査前の天候】

調査前1週間の降雨はなかった。

当日の天気は、晴、最高気温は34.4℃（東京）であった。

【調査結果】

お台場、St.6、St.8、St.11、St.22、St.23 及び St.25 の7地点で赤潮が見られた。お台場、St.6、St.11 及び St.25 で底層の溶存酸素量が2.0 mg/L 未満の貧酸素状態であった。

赤潮調査では、1回の調査につき数地点で表層水を採水し、動植物プランクトン優占5種の定量を実施している。7月29日はお台場と St.6 の2地点で採水し定量を行った。

結果は表のとおり、細胞数では珪藻の *Skeletonema costatum* が最多となり、次いで *Thalassiosira* spp.の順に多かった。このほか、Thalassiosiraceae、*Chaetoceros* spp.が優占5種に入った。動物プランクトンでは繊毛虫類の Oligotrichida が多く、このほか Nauplius of Copepoda や *Tintinnidium mucicola*、*Tintinnopsis* sp.などが見られた。

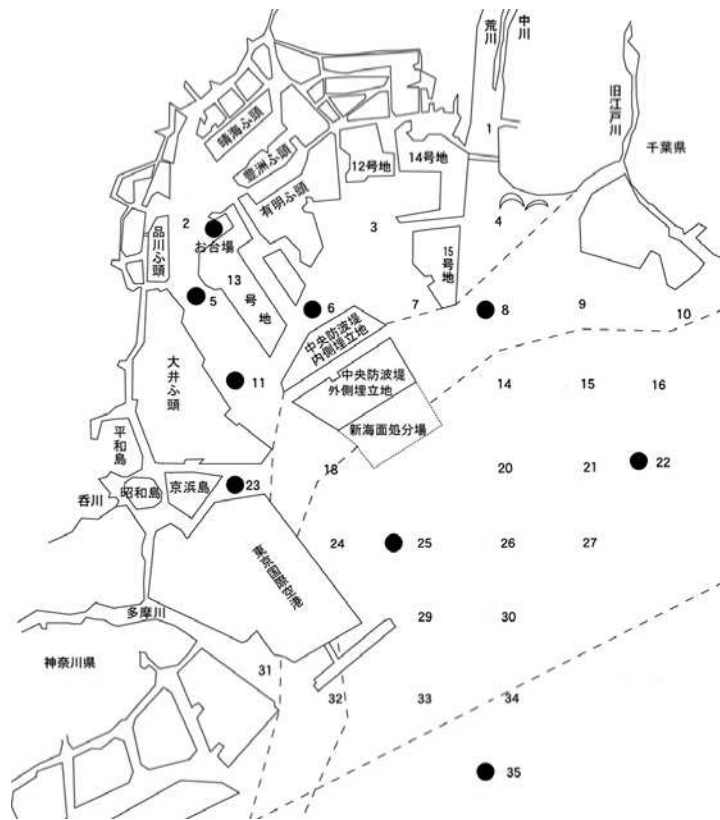


表 7/29 赤潮調査におけるプランクトン（優占5種）定量結果

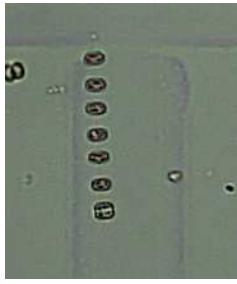
調査地点	お台場	St.6
採取年月日	7/29	7/29
植物プランクトン		
種名	細胞数(×10 ⁶ 細胞数/m ³)	
Cryptomonadaceae	3,890	
<i>Cyclotella spp.</i>		7,200
<i>Skeletonema costatum</i>	40,500	31,900
<i>Thalassiosira spp.</i>	32,800	18,000
Thalassiosiraceae	6,700	14,400
<i>Chaetoceros spp.</i>	13,000	8,420
other phytoplankton	13,000	13,900
動物プランクトン		
種名	個体数(×10 ⁶ 個体数/m ³)	
<i>Tintinnopsis sp.</i>	0.63	2.53
<i>Favella ehrenbergii</i>	0.55	
<i>Eutintinnus sp.</i>		1.26
<i>Tintinnidium mucicola</i>	1.58	0.63
Oligotrichida	7.89	6.95
Nauplius of Copepoda	2.13	1.0
other zooplankton	1.11	3.3

◎調査で観察された主なプランクトン

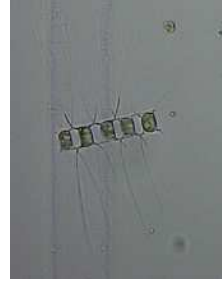
・植物プランクトン



珪藻 *Skeletonema costatum*



珪藻 *Thalassiosira* sp.



珪藻 *Chaetoceros* sp.

・動物プランクトン



繊毛虫 *Tintinnopsis* sp.

水生生物調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

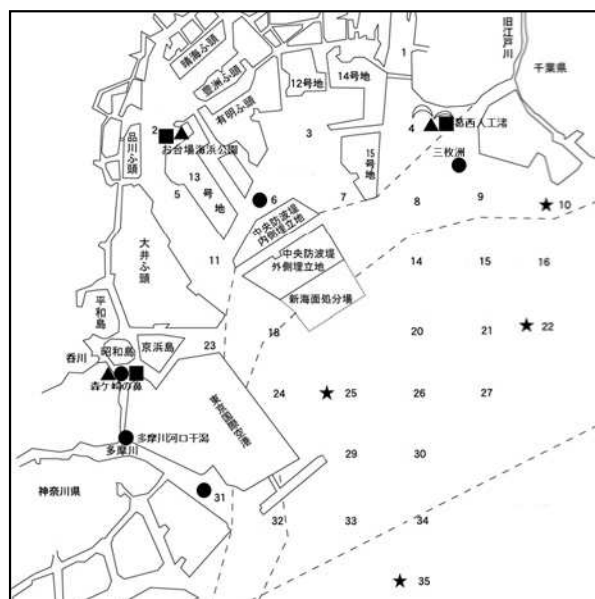
東京都環境局では、東京都内湾部、浅海部、干潟部において水生生物調査を実施している。
令和6年8月から9月に掛けて、稚魚、成魚、鳥類、底生生物の各種調査を実施した。
なお、稚魚調査は小型地引網、成魚調査は小型底引網を用いて調査している。

【調査実施日】

稚魚：8月8日、成魚：9月4日、鳥類：8月7日、底生生物：8月21日

【調査地点】

調査地点		稚魚	成魚	鳥類	底生生物
内湾部	St.6				●
	St.22		★		
	St.25		★		
	St.35		★		
浅海部	St.10 (江戸川河口・高洲)		★		
	三枚洲 (荒川河口)				●
	St.31 (多摩川河口)				●
干潟部	葛西人工渚	▲		■	
	お台場海浜公園	▲		■	
	森ヶ崎の鼻	▲		■	●
	多摩川河口干潟				●
地点数		3	4	3	5



【調査結果概要】

1. 稚魚調査（8月8日）

調査中の天気は晴、調査当日は大潮であった。

採取された主な魚種は次のとおり。（速報のため、種名等は未確定）

全地点において、ビリンゴ及びマハゼが出現した。

		お台場	森ヶ崎 の鼻	葛西 人工渚
魚 類	ビリンゴ	c	c	c
	マハゼ	+	r	+
	エドハゼ		r	
	シモフリシマハゼ			r
	トウゴロウイワシ	+	m	
	クロサギ属	+		
	ウグイ属		c	
	ギマ		r	
	ボラ			r
	コトヒキ			r
	メナダ			r
	サッパ		r	
魚 類	シラタエビ	c	r	r
	アミ科	c		
以 外	ユビナガスジエビ		r	r
	ガザミ			r

m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

○調査で確認した主な種



2. 成魚調査 (9月4日)

当日の天候は曇り時折少雨であり、潮差は中潮であった。採取された主な種は次のとおり。
(速報のため、種名は未確定)

St.10 を除き下層は貧酸素状態であった。当日の水色は概ね暗緑色で透明度が 1.5m 以上であったことから赤潮ではなかった。種別では、スズキ、マルアジが 2 地点で確認された。魚以外では、St.35 でホンビノスガイが確認された。

		St.35	St.25	St.22	St.10
下層DO[mg/L]		0.3	0.6	1.8	2.5
魚類	ツバクロエイ		r		
	アカエイ		r		
	スズキ		r		r
	マルアジ			c	r
	マアジ			r	
	コノシロ				+
	サッパ				r
	アイゴ				r
魚類以外	ホンビノスガイ	r			

c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

○調査で確認した主な種



3. 底生生物調査 (8月21日)

採取された種は次のとおり。(速報のため、種名は未確定)

St.6の下層は貧酸素状態であった。

	出現種
多摩川河口干潟	ヤマトオサガニ、ミズヒキゴカイ科、ホトトギスガイ
森ヶ崎の鼻	ムロミスナウミナナフシ、ニホンドロソコエビ
St.6	ニッコウガイ科
三枚洲(荒川河口)	アサリ、チロリ科
St.31(多摩川河口)	アサリ、シオフキガイ、オウギゴカイ

○調査で確認した主な種



4. 鳥類調査（8月7日）

当日の天候は曇り、潮差は大潮であった。出現種と数は次のとおり。

種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）及び東京都レッドデータブック 2023（区部）で絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されているホウロクシギが葛西人工渚で確認された。また、東京都レッドデータブック 2023（区部）で絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されているダイシャクシギが葛西人工渚で、ササゴイとコチドリが森ヶ崎の鼻でそれぞれ確認された。また、東京都レッドデータブック 2023（区部）で絶滅危惧ⅠB類（EN）に指定されているミサゴが葛西人工渚で、チョウゲンボウが森ヶ崎の鼻で確認された。

	葛西人工渚 (東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場 海浜公園
確認された種数	17種	10種	9種
カルガモ	1	11	
ミヤコドリ	5		
コチドリ		4	
ホウロクシギ	1		
ダイシャクシギ	1		
ソリハシシギ	1		
イソシギ	5	4	9
キアシシギ	3		4
ユリカモメ	1		
ウミネコ	2505	94	4
オオセグロカモメ	84		
カワウ	1018	363	2682
ササゴイ		1	
アオサギ	21	43	64
ダイサギ	41	17	6
チュウサギ	2		
コサギ	32	4	7
ミサゴ	1		
トビ	1		4
チョウゲンボウ		2	
ハクセキレイ			3

○調査で確認した主な種



生物調査（干潟以外）のレポート④

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都板橋区	石神井川 (久保田橋、緑橋)	7月29日	魚類、底生動物

生物調査の結果

団体名	東京都板橋区		
調査地点名	石神井川 ①久保田橋 ②緑橋		
位置座標 (可能であれば)	緯度	①N35.45.26 ② N35.45.20	
	経度	①E139.41.46 ② E139.42.57	
実施年月日	令和7年7月29日(火)		

令和7年度 石神井川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温 (°C)	水温 (°C)
石神井川	①久保田橋付近	2025/7/29(火)	晴れ	33.0	25.5
	②緑橋付近	2025/7/29(火)	晴れ	34.0	29.0

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影を行い、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



投網



タモ網



カゴ網

2 調査結果

① 河川状況

(1) 石神井川① 久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている2箇所を設置した。



(2) 石神井川② 緑橋付近

河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より多くなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計2箇所設置した。



② 魚類調査結果

石神井川の2地点全体では、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ及びギバチなど、2目3科4種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧Ⅱ類に該当するギバチ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RDB2023 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠA類に該当するドジョウ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するヒガシシマドジョウ、ギバチが確認された。

外来種については該当する種は確認されなかった。

.....

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

○「東京都 RDB2023 区部」:東京都レッドデータブック(区部)2023年

絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2023)

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

.....

魚類調査結果

No.	目名	科名	種名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023 区部	外来種	
				① 久保田橋 付近	② 緑橋 付近					
1	コイ目	コイ科	モツゴ		1	1				
2		ドジョウ科	ドジョウ	20	18	38	NT	CR		
3			ヒガシシマドジョウ		2	2		VU		
4	ナマズ目	ギギ科	ギバチ		3	3	VU	VU		
	2目	3科	4種	種類数計	1	4	4	2	3	0
				個体数計	20	24	44			

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2024」に従った。

地点別魚類捕獲状況

地点	No.	種名	体長(mm)		個体数	備考	
			最大	最小			
石神井川	①久保田橋付近	1	ドジョウ	15	10	20	
	②緑橋付近	1	モツゴ	21		1	
		2	ドジョウ	31	9	18	
		3	ヒガシシマドジョウ	30	20	2	
	4	ギバチ	30	25	3		



モツゴ



ドジョウ



ヒガシシマドジョウ



ギバチ

③ 底生動物調査結果

石神井川の2地点全体では、モノアラガイ属、オヨギミズ科など、5綱11目12科18種の底生動物が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種は確認されなかった。

「東京都 RDB2023 区部」に該当する種として、留意種に該当するモクスガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

底生動物調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	学名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023 区部	外来種	
						① 久保田橋付近	② 緑橋付近					
1	腹足綱	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.	8	6	14				
2	ミズミズ綱	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科	Lumbriculidae		1	1				
3		イトミズ目	ミズミズ科	エラミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>	4		4				
-				ミズミズ科	Naididae			3	3			
4	ヒル綱	吻蛭目	ヒラタビル科	ハバヒロビル	<i>Alboglossiphonia lata</i>	1		1				
5		吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	4	3	7				
6	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	1		1			その他	
7		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	90	46	136				
8			モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>		1	1		留		
9	昆虫綱	カゲロウ目 (蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバカゲロウ属	<i>Cloeon</i> sp.		1	1				
10				ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>		1	1				
11				ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>		5	5				
12		カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	1	1	2				
13		トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>		1	1				
14		ハエ目 (双翅目)	ユスリカ科	ナガレツヤユスリカ属	<i>Rheocricotopus</i> sp.		20	20				
15				ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.		8	8				
16	エリユスリカ亜科			Orthoclaadiinae		1	1					
17	モンユスリカ亜科			Tanypodinae		2	2					
	5 綱	11 目	12 科	17 種	種類数計	7	15	18	0	1	1	
					個体数計	109	100	209				

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

○「東京都 RDB2023 区部」:東京都レッドデータブック(区部)2023年

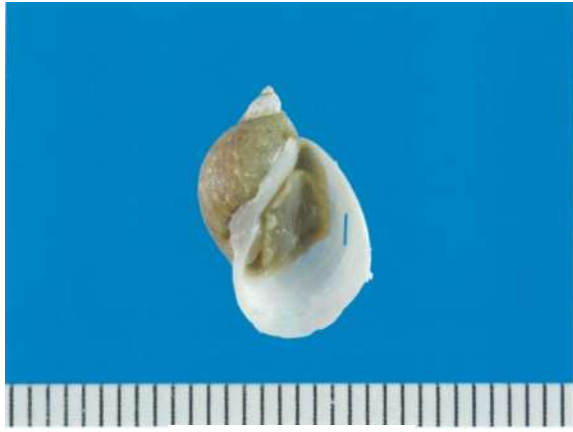
留意種(留):現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2023)

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

その他の総合対策外来種(その他):総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種



モノアラガイ属



カワリヌマエビ属



モクズガニ



ウデマガリコカゲロウ



コガタシマトビケラ

3 調査結果のまとめ

魚類の経年変化について

石神井川久保田橋付近では、平成 20 年以前は 6 種、平成 21 年からはドジョウ、アブラハヤなど 0~6 種と確認種数は少なく、本年度の確認種は、ドジョウの 1 種であり、令和5年度に比べ、種類数、個体数とも減少している。

個体数については、令和3年度と令和5年度にドジョウは2個体しか確認されなかったが、今回は 20 個体確認された。種類については、令和5年度に確認されていたアブラハヤ、タモロコ、ヒガシシマドジョウ、ギバチは確認されなかった。

現地調査時の河川の状況は、久保田橋付近の環境が、一昨年から大きく変化した様子は見られないことから、これら出現種の変化については、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水による影響の可能性が考えられる。

石神井川緑橋付近では、平成 20 年以前は 11 種、平成 21 年からはアブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ギバチなど 1~9 種が確認されている。本年度の確認種は、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチの計4種であり、令和5年度に比べ、種類数、個体数ともに減少している。本年度はドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチが令和5年度に続き確認されたが、アブラハヤ、タモロコ、ミナミメダカ、ヨシノボリ類は確認されなかった。しかしながら、令和5年に確認されなかったモツゴ1個体が再び確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、石神井川は両地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

一般的には、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや大きささまざまな寄り州、またはブロックのすき間、水草などは、増水などからの逃げ場となりえる環境と考えられており、現状より増加することが望まれる。

生物調査（干潟以外）のレポート⑤

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
横浜市港湾局	横浜港本牧沖	8月7日、8月8日、 8月18日、8月19日	海藻類、水生生物及 び着生生物等

生物調査の結果

団体名	横浜市港湾局
調査地点名	横浜港本牧沖
実施年月日	令和6年8月27日～28日

【調査位置】

図1に示す調査位置の護岸において、図2に示す3水深の遊水室内等を調査。



図1 調査位置図

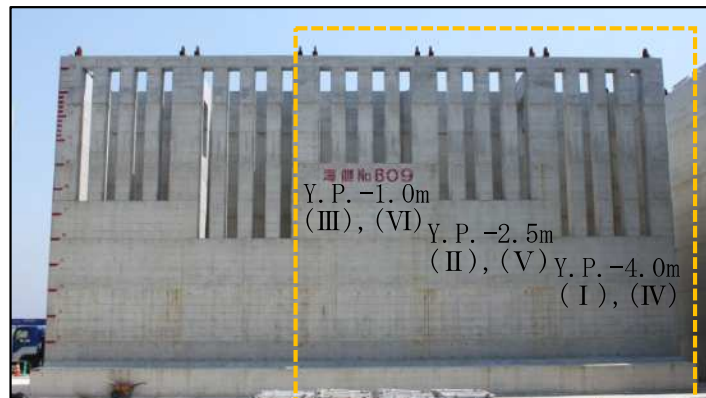


図2 調査対象遊水室

【調査方法】

Y.P. -1.0m、Y.P. -2.5m、Y.P. -4.0mの3種類の水深の遊水室内、遊水室内底面を潜水士により目視調査、及び方形枠（50×50）を使用した坪刈りを行った。また、Y.P. -1.0mの位置については、ケーソン前面、間詰石、根固めブロックについても同様の調査を行った。

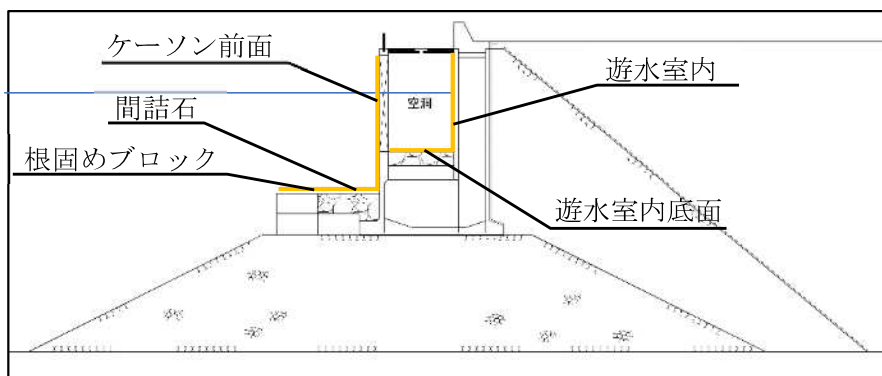


図3 調査位置断面図

【調査結果概要】

調査結果は以下のとおりである。

本牧ふ頭側の地点について、Y.P. -4.0m の遊水室を持つ地点を地点(I)、Y.P. -2.5mを地点(II)、Y.P. -1.0mを地点(III)とする。沖側の地点について、Y.P. -4.0m の遊水室を持つ地点を地点(IV)、Y.P. -2.5mを地点(V)、Y.P. -1.0mを地点(VI)とする。

表1 目視調査による出現種一覧(1)

区分	種名	遊水室内壁面(コンクリート)						遊水室内底面(じゃかご)						
		(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	
植物	アオノリ属	●	●		●		●							
	アオサ属	●	●	●	●	●	●			●				
	シオグサ属			●						●				
	イギス目(微小紅藻類)			●										
	藍藻綱	●	●	●	●	●	●							
	珪藻綱													
動物	海綿動物門	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ヒドロ虫綱	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	タテジマイソギンチャク	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	イソギンチャク目	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ケハダヒザラガイ属			●	●	●								
	アラレタマキビガイ	●	●	●	●	●	●							
	シマメノウフネガイ	●	●					●	●	●		●		
	レイシガイ				●			●	●	●	●		●	
	イボニシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	アカニシ	●	●					●	●	●		●		
	クロシタナシウミウシ			●	●	●					●	●	●	
	ムラサキガイ			●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	ミドリイガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ナミマガシワガイ											●		
	マガキ	●	●	●		●	●	●	●			●	●	
	ミズヒキゴカイ科								●	●				
	カンザシゴカイ科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	イワフジツボ	●	●		●	●	●							
	サンカクフジツボ				●	●	●		●		●	●	●	
	ココポーアカフジツボ				●	●	●						●	
	ナンオウフジツボ				●	●	●						●	
	Phoronis属	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	裸喉綱	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	イトマキヒトデ	●	●					●	●	●				
	サンショウウニ													
	マナマコ						●							
	ユウレイボヤ属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	エボヤ													
	シロボヤ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ホヤ綱(単体性)													
ホヤ綱(群体性)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
合計	37種	21種	20種	21種	24種	23種	23種	17種	20種	20種	15種	18種	18種	

表2 目視調査による出現種一覧(2)

区分	種名	ケーソン前面		間詰石		根固めブロック	
		(III)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)
植物	アオノリ属						
	アオサ属	●	●				
	シオグサ属	●	●				
	イギス目(微小紅藻類)	●					
	藍藻綱						
	珪藻綱	●					
動物	海綿動物門	●	●	●	●	●	●
	ヒドロ虫綱	●	●	●	●	●	●
	タテジマイソギンチャク	●	●	●			
	イソギンチャク目	●	●	●	●	●	●
	ケハダヒザラガイ属						
	アラレタマキビガイ						
	シマメノウフネガイ						
	レイシガイ	●		●			
	イボニシ	●	●		●		●
	アカニシ						
	クロシタナシウミウシ	●				●	
	ムラサキイガイ						
	ミドリイガイ	●	●	●	●	●	●
	ナミマガシワガイ	●		●		●	
	マガキ	●	●	●	●	●	●
	ミズヒキゴカイ科	●	●	●	●	●	●
	カンザシゴカイ科	●	●	●	●	●	●
	イワフジツボ						
	サンカクフジツボ	●	●	●	●	●	
	ココポーマアカフジツボ		●				
	ナンオウフジツボ						
	Phoronis属		●				
	裸喉綱	●	●	●	●	●	●
	イトマキヒトデ	●	●	●	●	●	●
	サンショウウニ	●	●			●	●
	マナマコ						
	ユウレイボヤ属	●	●	●	●	●	●
	エボヤ	●					
	シロボヤ	●	●	●	●	●	●
	ホヤ綱(単体性)		●			●	
ホヤ綱(群体性)	●	●	●	●	●	●	
合計	37種	24種	21種	16種	16種	16種	13種

表3 坪刈りによる出現種一覧(植物)

種名	遊水室内						遊水室内底面						ケーソン前面		間詰石		根固めブロック	
	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)
1 アオサ属									●				●					
2 シオグサ属	●	●	●						●				●					
種類数	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0

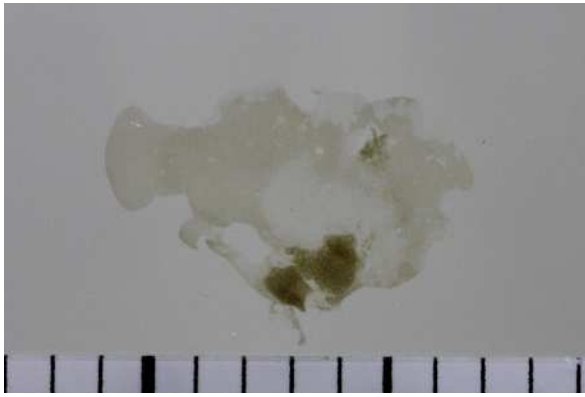
表4 坪刈りによる出現種一覧(動物)(1)

種名	遊水室内						遊水室内底面						ケーソン 前面		間詰石		根固め ブロック	
	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)
1 海綿動物門				●	●	●												
2 イソギンチャク目	●	●		●	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●
3 ヒラムシ目	●	●		●			●	●	●			●	●		●	●	●	●
4 紐形動物門		●	●	●			●	●	●		●		●					
5 コシカガシカテラ									●									
6 シマメノウフネカイ							●		●				●	●	●		●	
7 カコメカイ													●					
8 ヒメヨウラク							●											
9 レイシカイ	●											●	●	●				
10 イボエシ	●	●	●			●	●	●	●			●	●			●		
11 アカシ								●	●		●							
12 ムギカイ							●	●	●				●	●				
13 フトウカイ					●				●									
14 裸鰓目		●		●									●	●		●		
15 コヘルツフネカイ													●	●				
16 サルホウ属			●										●	●				
17 ムラサキカイ			●	●	●	●				●	●	●	●	●				●
18 ミドリイカイ	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19 コウエンカワヒバリカイ	●			●		●		●	●				●	●		●	●	●
20 ヒバリカイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21 タマエカイ				●					●				●	●	●	●	●	●
22 タマエカイ属							●											
23 赤トキスカイ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
24 マカキ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25 ウスカラシオツカイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26 アザリ									●						●	●	●	●
27 キスマトイカイ													●	●		●		
28 フクロホシムシ科													●					
29 Phyllodoce属																		●
30 Eumida属																		●
31 Eulalia属				●					●				●					
32 Harthothoe属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●
33 ミロウロコムシ														●				
34 サンハチウロコムシ														●				
35 ガトヒメカイ科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
36 Autolytinae亜科				●										●	●			
37 Syllinae亜科	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●
38 ヒメカイ	●	●		●		●				●	●		●	●			●	
39 アシナカゴカイ																		●
40 オウキゴカイ													●	●		●	●	●
41 マサゴカイ				●						●			●	●		●	●	
42 フツウゴカイ				●	●				●				●	●				
43 クマトリゴカイ	●				●		●	●	●		●		●					
44 ツルヒケゴカイ																		●
45 Glycera属														●				
46 Eunice属														●		●		
47 セグロイソメ									●									
48 Schistomerings属				●			●						●	●			●	
49 Dipolydora属	●	●	●				●						●	●				
50 Polydora属	●	●	●	●	●	●							●	●	●	●	●	●
51 ミスヒキゴカイ	●	●	●	●	●		●						●	●	●	●	●	●
52 Dodecaceria属	●	●	●	●	●	●			●				●	●				
53 Timarete属				●	●					●	●	●		●			●	
54 Nicolea属													●					
55 Terebella属													●					
56 Thelepus属	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●					
57 ケヤリ科	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●	●
58 エソカサネカンサシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●		●	●	●
59 ヤッコカンサシゴカイ													●		●			

表4 坪刈りによる出現種一覧(動物)(2)

種名	遊水室内						遊水室内底面						ケーソン 前面		間詰石		根固め ブロック		
	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)	(III)	(VI)	
60	ウミグモ綱	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●		●		
61	ヨーロッパフシツボ												●	●					
62	サンカクフシツボ				●	●	●	●					●	●	●		●	●	
63	ナンオウフシツボ				●								●					●	
64	コノハエビ						●			●									
65	ウミナナフシ属	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●			●		
66	シリケンウミセミ	●																	
67	ツノウミセミ				●	●	●				●		●	●		●		●	
68	ヒゲナガヨコエビ属								●										
69	ユンボソコエビ属												●	●			●		
70	Monocorophium属												●	●					
71	ホソヨコエビ									●	●	●	●	●		●		●	
72	トノミ属				●								●						
73	トゲホソヨコエビ属	●	●	●			●		●				●				●		
74	イソヨコエビ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	
75	アリタヨコエビ属	●							●				●						
76	チビマルヨコエビ属			●	●	●								●					
77	マルハサミヨコエビ属													●					
78	タテヨコエビ属	●			●									●					
79	ウレカラ属				●						●		●	●		●	●	●	
80	モエビ科												●	●					
81	フトウテネシレカニガマシ				●		●						●	●			●		
82	イッカクモガニ											●	●	●	●		●		
83	ヨツバモガニ				●		●	●	●			●	●	●					
84	コイチョウガニ																●		
85	イボイチョウガニ						●						●		●	●			
86	イシガニ											●			●	●			
87	フタバベニツケガニ												●	●		●			
88	ケブカアワツバガニ						●							●					
89	シリウキガニ													●					
90	ヒメクワガニ												●	●		●		●	
91	スハスハオウキガニ												●	●		●			
92	ヒライソガニ												●	●		●			
93	スネカイガニ															●			
94	アシナガハエ科																		
95	フクロコムシ科	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●				
96	アミコムシ科				●								●	●					
97	ツノマタコムシ科				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●			
98	フサコムシ科				●	●	●	●	●					●					
99	トゲコムシ科	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●					
100	ヒラコムシ科	●	●																
101	コブコムシ科				●	●								●					
102	Phoronis属	●	●		●	●		●	●				●	●		●	●		
103	イトマキヒトデ						●	●					●		●	●	●	●	
104	Ophiactis属	●	●	●			●	●	●				●		●				
105	カキモヒトデ														●				
106	サンショウウエ															●	●		
107	イシコ								●					●		●			
108	マンジュウホヤ科	●	●		●	●		●						●					
109	ウスホヤ科													●					
110	カタエウレイホヤ	●	●		●	●	●	●	●				●	●					
111	サツホヤ科											●	●	●	●				
112	イタホヤ科	●			●														
113	エホヤ					●													
114	シロホヤ	●	●		●	●		●		●	●	●	●	●					
115	シロホヤ科	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●			●		
116	マホヤ科													●					
	種類数	39	33	28	53	38	29	38	30	45	16	27	29	69	77	25	37	32	29

【写真】



アオサ属



シオグサ属



Dodecaceria 属



ウスカラシオツガイ



エゾカサネカンザシ